

事務局から

▼会員懇談会、研究所主催の学習会などを開催したいと思いつながら、このコロナ禍、人を集めて、対面の催し物を開催することが厳しい状況です。これは、私たちの研究所だけの話に限りません。こうした課題を解決する一つのツールがZoomです。今後、研究所もZoomの活用を検討したいと思えます。

▼新潟市内の中学校に環境問題に関わる小冊子を寄付したい。その仲立ちを研究所にお願いしたいという依頼がありました。新潟市教委に問い合わせをし、手配をすることができました。研究所があてにされている存在であることをあらためて感じました。

▼皆様のご協力により、今年度の会費納入率は高い状況です。しかし、100%ではありません。本号と会費納入の督促が同封された方、早急な納入をお願いします。

▼本誌「いがたの教育」の創刊号から最新号に載った記事のデータベース化ができました。詳しくは、本号と共に発行される「研究所通信」1

61号をご覧いただき、活用してください。そして、感想や活用例をお寄せください。今後、「研究所通信」の資料化を検討します。(和澄)

編集後記

▼今回の特集では、児童・生徒たちの学習活動を支える多様な人々の活動と現状について掲載した。

個に応じたきめ細かな教育活動を進める上で、欠かすことの出来ない人々だ。それぞれの役割を有効に果たすことを願って、仕事に当たっていることが分かった。

反面、多くの問題を抱えていることも覗えた。「官製ブザー」と言われている低賃金、待遇など、その見直しは待ったなしの課題だ。

▼コロナ禍2年目を迎え、学校現場では新たな視点での教育活動が進められている。一方、長期化にともなう、経済的な打撃が家庭生活を脅かす事態となっている。「児童虐待」が増えているとの指摘がある。実態調査とその対策が必要だ。さらに、授業料が払えず「退学」を選択するこ

との無いよう、返済を必要としない給付の支援策が求められている。青年・学生の実態、支援の様子については、「新潟県内での支援活動について」で詳しく報告されている。

▼30年ぶりに小学校の学級規模の見直しが行われ、35人学級の整備が開始された。今後は、実施計画の前倒し、中学校での少人数学級の実施を獲得したい。

暑い時期を迎えます。ご自愛ください。(小東)

いがたの教育情報 No. 134

2021年6月30日発行

編集・発行 いがた県民教育研究所

発行人 小林 昭三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

TEL・FAX 025-369-0671

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。